クロスズメバチ

昼食弁当を食べていました。おかずの塩鮭を口に入れた途端ジガーツと上唇の内側が痛みました。しばしば弁当のおかずを盗みに来るクロスズメバチを口にいれてしまったのです。老眼で近くの物が見え難いので、鮭の焦げた皮が保護色となってハチが止まっているのが分からなかったのでした。右の写真は容疑ハチが焼き鮭の皮の部分にとりついて、齧りとり胸で丸めて肉ダンゴを作っている現場です。痛みにめげずに弁当を全部平らげてしまったわが食い意地に我ながらあきれてしまいます。飢餓の時代を経験した世代の悲しい性であります。2012 年 9 月 3 日澄川森林での出来事でした。

クロスズメバチとその仲間はスズメバチといっても小さいハチです。餌集めの労働をするのは♀ハチの役目ですから 14～16mmでしかありません。愛用している図鑑「札幌の昆虫」にはクロスズメバチ属として 3 種類。区別の困難なホオナガスズメバチ属も 3 種類が掲載されています。クロとホオナガの区別は読んで字のごとく掴まえて拡大鏡で顔の長さを見較べてやっと可能なのです。かつ、これら 6 種の区別も顔を正面から見較べなければ出来ない相談なのですから、写真での同定は専門家でも不可能ですから、このハチは取りあえず代表的なクロスズメバチとしておきます。

昨年も駐車場広場の崖縁に植えたエゾヤマザクラの樹冠にホオナガ?の巣があるのを知らずに支柱を外す動作中に右耳を刺されました。2 年続きの被災です。毎年メンバーのだれかかれかがスズメバチ科のハチたちにやられています。痛いし腫れるし厭な災難ですが、毒は使い用で薬にもなるわけで、ハチ毒からの薬として関節炎やリュウマチ対応のものや美肌づくりのものなどいろいろ開発されているようです。ただ、しばしば刺されて死ぬ人が新聞沙汰になりますが、これはハチ毒アレルギー体質の人が不幸に見舞われるわけで、自分がその体質かどうかは事前に検査することも聞きませんので、刺されてみなければ分からないのが悩みです。筆者は少年時代から幾度も刺されていますが、幸いにもアレルギー体質ではないようです。

信州人はこのハチの仔を好み、巣をみつけると掘り出して、幼虫を略奪し尽くし、珍味といたしますが、心やさしい北海道人にはその習慣はありません。